

② 分娩時の loss of variability とは何か。

このステロイドの loss of variability は陣発前の NST によるものです。

168. 晩期妊娠中毒症に対するヘパリン療法の有効性に関する検討

(筑波大)

柴田 治郎, 飯島 悟, 木村まり子
佐々木純一, 金子 実, 久保 武士
岩崎 寛和

目的：妊娠中毒症を、chronic DIC の立場から捉え、抗凝固療法が試みられつつあるが、その評価については未だ確立されていない。我々は、重症例に対して抗凝固療法 (low dose Heparin, dipyridamole) を行ない、本治療法の有効性を従来の対症療法 (C群) のそれと比較検討した。

方法：妊娠中毒症の重症度は、9コの臨床情報 (① 年齢, ② 経産回数, ③ 妊娠持続日数, ④ 収縮期圧, ⑤ 拡張期圧, ⑥ 尿蛋白, ⑦ 浮腫, ⑧ 血色素量, ⑨ 症状初発週数) を用い、妊娠中毒症における周産期死亡の予測式 (本多等) により評価した。対象は、昭和52年より、昭和55年10月迄、当科で分娩した重症妊娠中毒症22例で、Heparin 治療群 (H群) は、そのうち5例である。Heparin は、200u/kg/日を点滴静注で、dipyridamole は 200mg/日を経口で、2日から7週間投与した。

成績：児の死亡予測率70%以上を high risk とした場合、H群は4例、C群6例が、high risk であった。この high risk 群では、C群6例中、実際の周産期死亡は3/6=50%であったが、H群4例では、0/4であった。一方、low risk 群は、H群1例、C群11例であったが、実際の周産期死亡は、H群0/1、C群1/11であった。又、H群では、腎機能改善は、80% (4/5)、尿蛋白減少は、60% (3/5)、血小板増加は、60% (3/5)、胎児胎盤機能の改善は、80% (4/5) に認められた。しかし、2症例で、Heparin 投与後2日目に、急激な AT III、及び、血小板の減少と、FDP の上昇がみられた。新鮮凍結血漿による AT III の補充によつて、血小板数は上昇し、FDP は低下した。

結論：晩期妊娠中毒症重症に対するヘパリン療法の効果を、従来の対症療法群と、児の予後から比較検討し、ヘパリン療法の有効性が示唆されたが、尚、症例を重ねて、検討する必要がある。又、ヘパリン投与によつて、AT III の消費が過剰におこり、逆に、血栓形成傾向が出

現する可能性も認められたので、Heparin 投与にあつては、AT III の値を follow しながら、投与量、投与方法を慎重に検討する必要がある。

質問 (神奈川・警友総合病院) 鈴木 健治

① C群とH群との間の各因子の差で、帝切率が最も顕著な差を認めるが、H群5例にすべて帝切が行われているが、その適応は何であつたか。

② その適応が Fetal well feeding の限界にきたとするならば少なくとも胎児胎盤機能検査にはあまり有効でなくて母体状態の改善のみを目的とするものとも解釈されるが、どうか。

回答 (筑波大) 柴田 治郎

妊娠中毒症を日常臨床上、治療していく上で、我々は、常にジレンマに遭遇しております。といいますのは、母体にとつては、可及的速やかに妊娠を中絶する事が最も望ましい事ですが、児にとつては、臓器が成熟する迄、子宮外で健やかに生活出来る迄、子宮内で育つことが望ましい訳で、その意味で Termination の時期について、常に悩むことが多い訳であります。ヘパリンは、妊娠の継続を少しでも長く延ばすことの出来る薬剤、即ち母体の症状を改善し、かつ、胎児機能の改善も期待出来る薬剤として研究している次第です。

① 帝切の適応について。NST、軟産道骨産道因子等から、総合的に判断しております。

② Heparin は、母体症状のみならず、胎児胎盤機能の改善をも目的とした治療手段と考えています。

追加 (秋田大) 真木 正博

166, 167席を含めての追加である。

ヘパリンないしはヘパリノイド療法にあつての成績に不一致がみられている。ヘパリノイドはともかく、ヘパリン療法は AT-III-dependent なので、AF-III の低下が著明ならヘパリン療法は奏効しにくいのは当然である。したがつて、演者指摘のごとく AT-III のチェックが必要である。

169. 妊娠中毒症における血液流動学的研究

(名古屋大)

唐沢 哲郎, 早野雄二郎, 柵木 充明
今井 信昭, 友田 豊

妊娠によつて、子宮胎盤系及び胎児循環系という非妊時とは異なる循環系が加わることにより、母体の循環系は血液流動学的に著名な変動をきたす。そして血液粘度は血液流動学的に血流量に影響を与える。そこで正常妊娠及び妊娠中毒症各病型における妊婦の血液粘度と血液粘